

令和 6 年度

実施報告書

静岡どぼくらぶ
若手交流会

令和 7 年 4 月
静岡県交通基盤部



建設産業は、安全・安心な生活に欠かせないインフラや住宅等を整備し、災害から地域を守る重要な役割を担う本県の基幹産業です。

しかし、建設産業の経営環境は依然として厳しい状況が続き、担い手不足が深刻化する中で、若手建設従事者の離職防止が課題の一つとなっています。

このため、静岡県では、令和3年度から新たな取組として、一般社団法人静岡県建設業協会及び一般社団法人静岡県建設産業団体連合会との共催により、県内の若手建設従事者を対象とする「静岡どぼくら若手交流会」を開催することとしました。

令和3年度は、参加者たちに建設産業が抱える課題を解決するための方策を提案してもらうプログラムでしたが、若年層に向けた建設産業のPR強化を図るべきとの提案が多かったことから、令和5年度は、他社の先進的な工事現場を訪問する現場見学会やコミュニケーションの機会が充実できるよう中堅職員を交えた座談会を実施しました。令和6年度は、台風の影響で8月に開催を予定していた交流会が中止となりましたが、多くの方の御協力のもと企画を変えて11月と2月の2回にわたって静岡どぼくら若手交流会を実施することができました。1回目は、富士山静岡空港や新技術交流イベントを見学し、物流インフラや最先端の建設技術について理解を深めました。2回目は、座談会やレクリエーションにより参加者同士交流を深め、工事検査に関する講義や大規模な工事である馬込川水門工事を見学しました。

参加者からは、「新技術について、現場に有効活用できる技術を知れてよかった。」、「会社には同年代の人が少ないので同じ様な企業の同年代たちと交流ができてよかった。」との感想をいただき、取組を通じて交流が深まり、横のつながりが生まれるなど、大変有意義な交流会を開催することができました。

県といたしましては、今後も引き続き、建設産業における担い手確保・育成のための施策に取り組んでまいりますので、御理解・御協力のほどをお願いいたします。

若手交流会①

～富士山静岡空港・新技術交流イベント見学～

令和6年11月13日（水） 9:00～17:00

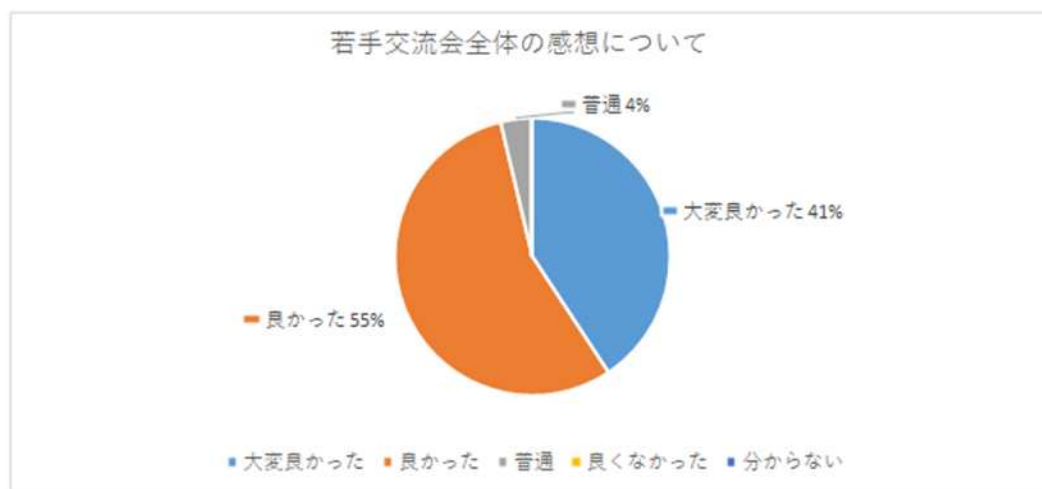
- 1 富士山静岡空港見学
（牧之原市坂口 3336-4）
- 2 昼食会
富士山静岡空港旅客ターミナルビル内
- 3 新技術交流イベント見学
グランシップ（静岡市駿河区東静岡 2丁目 3-1）

本年度の第1回「静岡どぼくら若手交流会」には、静岡県内各地から、計28人（うち女性は3人）の若手建設従事者の方々が参加してくれました。

富士山静岡空港において、県内の大規模な物流インフラについて学びました。制限区域である滑走路外周道路にて、航空機の離着陸を間近で見学しました。また、空港内の消防庁舎において化学消防車見学と乗車体験を行いました。

富士山静岡空港見学後は、静岡県交通基盤部主催の新技術交流イベントを見学しました。約110の企業・団体が130の新技術や取組を展示し、参加者は建設現場での活用が期待される最先端の建設技術について学びました。

アンケート結果①



参加者の方からは、「新技術について、現場に有効活用できる技術を知れてよかった。」
「年齢が近い建設業界の方達と交流できる場は中々なく、大変貴重な話もでき、充実した時間だった」との声をいただきました。

若手交流会②

～座談会等・講義・現場視察～

令和7年2月13日（木） 10:00～16:30

- 1 座談会・レクリエーション（静岡県浜松総合庁舎 702 会議室）
- 2 工事検査及び ICT 施工に係る講義（静岡県浜松総合庁舎 702 会議室）
- 3 現場視察（浜松市中央区中田島町地先）

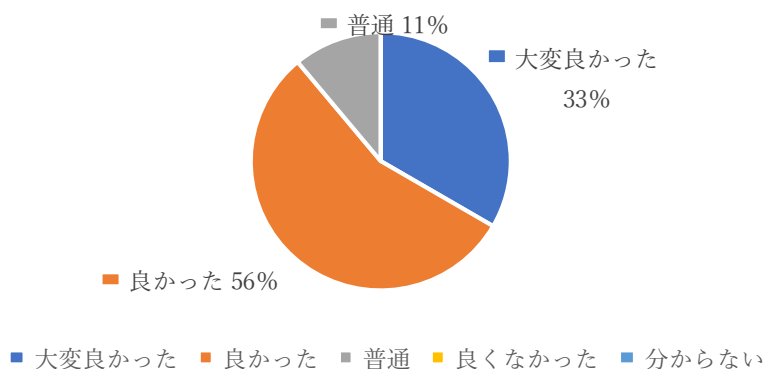
本年度の第2回「静岡どぼくら若手交流会」には、静岡県内各地から、計18人（うち女性は1人）の若手建設従事者の方々が参加してくれました。

午前中の座談会では参加者同士、自分がやっている仕事や職場の良いところ、趣味等最近ハマっていることについて語り合い、交流を深めました。また、レクリエーションではグループで得点を獲得するゲームを実施して、参加者同士親睦を深めました。

午後は、静岡県工事検査課や須山建設株式会社から来ていただいた講師による工事検査や ICT 施工に係る講義を受けました。その後、浜松市内を流れる馬込川河口部に津波対策として建設中の水門へ移動しました。静岡県浜松土木事務所及び三井住友・須山 JV の方の案内で、工事現場を視察するとともに、ARを使って完成後の姿を確認しました。

アンケート結果②

若手交流会全体の感想について



参加者の方からは、「年齢も社歴も近い人とコミュニケーションをとり、お互いの苦労していたことややりがい共有できたので良かった」との声をいただきました。